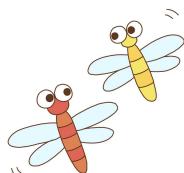


さくら



令和6年10月15日(火)

物事の見方



朝夕の空気に秋の深まりを感じつつも、昨日の日中は真夏の暑さを思わせました。家の外では、虫網を持った半袖の男の子たちが虫とりをしていました。しかし、油断は禁物。体育大会もあるので、万全の体調管理を。マイコプラズマ肺炎も増えています。睡眠・栄養補給・手洗い・必要に応じたマスク使用など、感染症予防を怠らないようにしましょう。

以前、お坊さんに教えていただいた話の一部を伝えます。物事を見るとき、さまざまな見方がある。仏教では、物事の見方には五つあり、これを五眼(ごげん)と言う。

物事をその表面だけで見ている状態を「肉眼(にくげん)」と言い、物事の本質は見えていない。日々の精進(じょうじん)で人格が高まっていくと、物事の本質を見抜く「天眼(てんげん)」が身についていく。さらに精進を重ねれば、あらゆる真実を見通せる「慧眼(えげん)」が得られ、より悟りに近づければ宇宙の真理を理解する「法眼(ほうげん)」や「仏眼(ぶつげん)」を得ることができます。仏眼の境地に達すると、一切の苦悩から離脱することができる」

仏眼に達するなど、私たち凡人には無理と思ってしまいそうです。しかし、物事の正しい見方を養うことはとても大切です。そのために、次のような実践が必要だと思います。

第一に「学び続ける」ということ。学校の学習はもちろん大切です。それに加えて、さまざまな人の出会いや社会の出来事から学ぶことも大切です。次に「正しい生き方」をするということ。お天道様に恥じない生き方をしているか。そして「素直な心で日々を生きる」ということ。素直な心を持つことで、物事に対して誤った見方や偏った見方をしなくなります。日々の生活の中で、このような実践を心がけてみましょう。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

